

## 脂質標準化参加各位

日頃、CDC/CRMLNによる脂質標準化にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

CDCによる脂質の標準化は、1975年(昭和50年)4月21日から、現大阪府立健康科学センターの前身である大阪府立成人病センター集団検診第一課の小検査室において、循環器疾患、特に国民病とも言われた脳卒中の疫学調査・研究と地域における予防対策の必要性から、小町喜男 筑波大学名誉教授の指導の下に始まったものであります。それから起算すれば、CDCの標準化は既に30余年の長きに渉り、今日まで営々と続いて参りました。一口に30年と言いましても、その間にはいろいろな技術的・財政的な難問が山積しましたが、幸いにして研究と予防対策に携わった多士済々の方々の理解と協力を得まして、今日に至っております。その間の経緯が、この度、「地域における循環器疾患の疫学研究と予防対策の発展---秋田・大阪における40年の歩み---」(編著 嶋本 喬、飯田 稔;監修 小町 喜男;2007年4月30日 第一版発行(財)日本公衆衛生協会 刊行)と題する共同著書の中で、「疫学研究の基盤となる精度管理と標準化(p150---p157)」というテーマで明らかにすることが出来ました。いわば、この部分こそが、私ども大阪府立健康科学センターが、何故に今日まで脂質標準化にこだわって来たのかを証明する根幹部分を成すものであります。

今日では、ひたすら地域住民の福祉と健康のためのフィールドワークを地道に続けている疫学調査・研究は極めて少なくなりました。脂質の標準化は、その循環器疫学の基盤を形成する一環として舞台裏で動いてきたものでありますから、古臭くて、しかも、目立たない印象を与えられると思われれます。しかしながら、脂質の標準化は、今日の臨床検査領域で最も必要とされる標準化のプロトタイプをCDCと一体になって提供してきたと自負しております。常に米国のCDCや欧州のネットワーク・グループの指導者等と共に歩み、常に標準化に関する最新の知見を投入して、斬新化を図ることに心を砕いてきました。この拙著が、わが国の臨床検査領域における国際的な標準化に関心のある方々にとって、いつの日か、何らかのご参考になるものと確信しております。以上、ご案内申し上げます。



2007.05.25

大阪府立健康科学センター 脂質基準分析室

中村 雅一